

令和4年度(2022年度)

京都市立芸術大学大学院音楽研究科入学試験

西洋音楽史

問1 下線部について、正しい場合は○を、誤っている場合は正しい語句を解答欄に記入しなさい。

1. ピエール・シェフェールに代表される、テープレコーダーで録音した日常の様々な音を加工、編集して作られた楽曲を総称して偶然性の音楽と呼ぶ。
2. ギョーム・ド・マシヨールの《皇帝マルチェルスのみさ曲》は、14世紀に作曲された現存する最古の通作みさ曲である。
3. 1791年にウィーンで初演されたモーツァルトの《魔笛》は、ドイツの伝統的な歌劇の一種であるメロドラマのジャンルに属する。
4. ベルリオーズは、ワイマール宮廷楽長時代の1850年代に交響詩という新たな管弦楽曲のジャンルを創案し、《前奏曲》や《マゼッパ》などの作品を作曲した。
5. J.S. バッハは、死後一部を除いて忘れられた存在となっていたが、1829年にメンデルスゾーンの指揮によって《みさ曲 短調》が再演されたことがきっかけで再評価された。
6. 18世紀半ばのパリでは、ベルゴレージのインテルメッツォ《町人貴族》の上演がきっかけとなって、イタリア音楽派とフランス音楽派の間での論争が起こった。
7. フィリップ・ド・ヴィトリはその著作『アルス・ノヴァ』において、それまで不当とされていた音価の二分割を初めて理論的に正当化した。
8. ルター派プロテスタントの教会音楽においては、ドイツ語の讃美歌であるモテットが重要な役割を果たした。
9. 第二次世界大戦後のヨーロッパでは、音高だけではなく、音価、強弱記号、アーティキュレーション記号など、あらゆる要素を音列化したトーン・クラスターが試みられた。
10. 最初期のオペラであるヤーコポ・ペーリの《エウリディーチェ》は、ことばの抑揚に合わせた歌唱旋律を楽器が伴奏するギャラント様式で全編が作曲されている。

問2 以下の中から5つ選んで解答しなさい。解答欄の最初に選んだ番号を記すこと。

1. グレゴリオ聖歌について説明しなさい。また、西洋音楽史においてどのような重要性があるのかについてもあわせて述べなさい。
2. ルネサンス時代におけるマドリガーレの特徴について、代表的な作曲家を挙げつつ説明しなさい。
3. バロック時代のイタリアの器楽について、代表的な作曲家やジャンルを挙げながら説明しなさい。
4. 18世紀の交響曲（シンフォニー）について、ジャンルとしての確立の経緯や主要な作曲家の名前を挙げながら説明しなさい。
5. リヒャルト・ワーグナーの作曲様式の特徴や西洋音楽史上の重要性について、代表作のタイトルも挙げつつ説明しなさい。
6. 19世紀のロシア音楽史の展開について、主要な作曲家の名前を挙げながら説明しなさい。
7. ヴェリズモ・オペラについて、代表的な作曲家や作品名を挙げつつ説明しなさい。
8. 十二音技法が誕生した経緯について説明しなさい。
9. 新古典主義とは何か。代表的な作曲家の名前や作曲様式の特徴に触れながら説明しなさい。
10. 実験音楽とは何か。代表的な作曲家とその思想に触れながら説明しなさい。

令和4年度（2022年度）

京都市立芸術大学大学院音楽研究科（修士課程） 共通科目試験

## 日本音楽史

1. 次の文の（ア）から（ノ）に当てはまる語を、次頁の語群から選んで答えなさい。

- (1) （ア）の儀式で僧侶が行う単旋律の声楽を総称して（イ）という。（ア）は、6世紀なかばに日本に伝来し、8世紀はじめに（ウ）の都に定着した。旧暦2月に（ウ）の（エ）、法隆寺、薬師寺などでは、（オ）という儀式が行われる。そこで用いられる（イ）は、後世のそれとは異なる特色をもつ。
- (2) 南北朝時代（1336～1392）に、大和猿楽の一つの結城座（後の観世座）から、能の大成者として名高い（カ）が出た。彼は技芸に優れ、三代将軍（キ）の愛顧を得て（ク）に進出した。（カ）の子である（ケ）も豊かな才能を持ち、夢幻能という能の形式を完成に導くとともに、『（コ）』をはじめ多くの芸術論を著した。
- (3) 16世紀後半に日本に伝来した弦楽器である（サ）は、それ以前に日本に伝来していた弦楽器である（シ）との合奏によっても発展した。この2つの弦楽器は、盲人音楽家たちによっても、その音楽的芸術性を高めていった。盲人音楽家たちは、（ス）と呼ばれる制度によって保護され、検校、（セ）、座頭などの官名を持った。座頭は、中世では（ソ）法師の通称でもあった。
- (4) 現在の歌舞伎で用いられている三味線音楽について言えば、それらの種目と曲目の多くは、18世紀から明治時代までの間に成立し、細棹三味線を用いる（タ）、中棹三味線を用いる（チ）（ツ）、太棹三味線を用いる（テ）が主な種目である。（テ）は、人形浄瑠璃の音楽として大阪から発展した。人形浄瑠璃は、幕末の興行師の名前に由来する（ト）という通称で知られている。
- (5) 日本には古くから楽譜が存在した。世界最古の印刷楽譜は、1472年に（ナ）で出版された（イ）の楽譜で、ヨーロッパ最古の印刷楽譜（グレゴリオ聖歌集）より1年早い。日本の楽器の記譜法は、音高を直接記さずに、（ニ）を書き示したものが多い。例えば、三味線では弦を指で押さえる位置を示した（ヌ）譜、小鼓・大鼓等では打ち方やリズムを記号で示した（ネ）譜があり、尺八では（ノ）の開閉状態に付けられた名称を片仮名で表記する。

【語群】

江戸、奈良、京、高野山、比叡山、東大寺、四天王寺、本願寺、仏教、キリスト教、修二会、修正会、当道、勾当、掾、徳川家光、足利義満、足利義政、世阿弥、観阿弥、黙阿弥、声明、唱歌、和讃、三味線、箏、琵琶、長唄、端唄、小唄、義太夫節、常磐津節、清元節、新内節、文弥節、雅楽、能楽、文楽、奏法、感情、勘所、粒付、指孔、風姿花伝、都の錦

2. 次の問いに答えなさい。

- (1) あなたが知る日本の楽器を1つとりあげ、その素材や形状、その基本的奏法や特色、その楽器による主な種目や作品などについて、歴史的背景を踏まえながら説明しなさい。
- (2) 現代における日本音楽（伝統音楽）の新たな展開について、具体例をあげて説明しなさい。